

福井県 明智光秀 & 戦国マップ

麒麟も
来た!!

越前若狭へ
いざ、タイムトラベル!



1 称念寺 (坂井市丸岡町長崎)

齊藤義龍の軍に明智城を滅ぼされた際、明智光秀は母・お牧の方の縁を頼り、妻・照子とともに称念寺の門前に身を寄せたといいます。



2 西光寺 (福井市左内町)

北庄城で自害した柴田勝家の菩提寺。
勝家と妻・お市の方が眠る墓所がある。



3 明智神社 (福井市東大味)

明智光秀が朝倉家臣時代に居住したという東大味、後の信長の越前攻略の際、光秀は勝家に申し入れ、かつて住んだこの地を戦火から守ったとされ、地元では「あけつちあま」と慕われ、今も明智神社に祀られている。

細川忠興の妻・ガラシャとなる光秀の三女・玉は、この地で生まれたといわれている。

15 熊川宿 (若狭町熊川)

若狭と京都を結ぶ鶴街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート。細川ガラシャの義母、沼田麝香の出身地。

若狭町

14 国吉城址 (美浜町佐祐)

若狭武田氏の重臣・栗屋勝久が築いた山城跡。1570年、織田信長は朝倉攻略のため、国吉城に陣を構えました。



13 金ヶ崎城址・金崎宮 (敦賀市金ヶ崎町)

戦国の三英傑（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康）が撤て散歩した「金ヶ崎の退き口」で知られる。退却戦では、明智光秀や秀吉らが殿を務めたとされる。

八幡宮交差点のお守り

12 玄蕃尾城跡 (敦賀市長浜市)

織田信長から越前八郡を与えられた柴田勝家は、北庄城を整備するとともに、信長の安土城への最短ルートとして橋ノ木峠を整備した。

※それぞれの施設を訪れる際は、休館日・営業時間などを事前にご確認ください。※明智光秀の生涯については説あり、記載されている内容はいずれも断定するものではありません。

4 朝倉街道 (福井市東大味)

一乗谷に物資などを移動するために築かれた道路。光秀が住んだ東大味から一乗谷に至る表通りには、現在も石畳の古道が残る。



福井市

5 一乗谷朝倉氏遺跡・一乗谷城址 (福井市城戸ノ内町)

朝倉氏が5代103年間、居城とした一乗谷城と城下町の跡。光秀は信長に仕える以前は朝倉義景に仕えていたといいます。

6 油坂峠 (大野市・岐阜県郡上市)

越前と濃濃の国境にある峠。越濃国に生まれた明智光秀は、斎藤義龍に攻められ、明智城を失う。その後、光秀は、妻・照子らと油坂峠を越え、越前へと逃れたといいます。



大野市

7 朝倉義景墓所 (大野市泉町)

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義景は、支族の朝倉景鏡に頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の反逆にあい、六坊賢松寺にて自殺。

越前町

8 剣鉾神社 (越前町織田)

織田信長のルーツと伝わる神社。織田氏の祖先が代々剣鉾神社の神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。

越前市

9 越前和紙の里 (越前市五箇町地区)

織田信長、豊臣秀吉、徳川康ら歴代の権力者から紙の流通を安堵する印鑑が残る。

「明智軍記」には、光秀が信長に仕える際に越前と紙を献上したという記載がある。

10

柄ノ木峠

織田信長から越前八郡を与えられた柴田勝家は、北庄城を整備するとともに、信長の安土城への最短ルートとして柄ノ木峠を整備した。

(滋賀県長浜市)



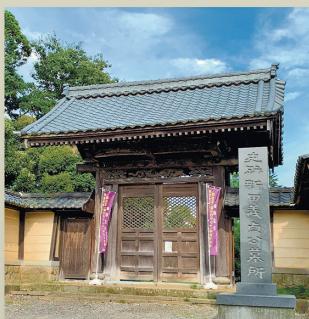
吉崎御坊 (awara city Gokizuka)

淨土真宗中興の祖・蓮如が、応仁の乱の戦火を避け、北陸布教の拠点とした。山の上に建てた「吉崎道場」は、一向一揆衆と朝倉氏の戦いで破却された。江戸時代、西本願寺と東本願寺の別院が麓に建てられ、蓮如の命日に合わせて御影道中・法事が営まれている。



丸岡城 (坂井市丸岡町霞城)

現存1天守のひとつ。上層腰壁を備える2層3階建てであり、野面積みの石垣など、初期の城郭建築様式を見せる。一向一揆に備え、柴田勝家の甥・勝繁が築城。現存する天守は、学術調査により寛永年間、初代丸岡藩主・本多成重の頃のものと考えられている。



称念寺 (坂井市丸岡町長崎)

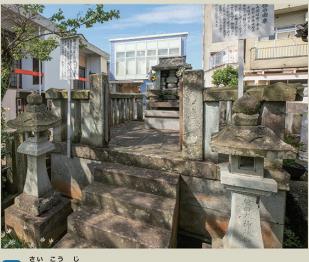
齊藤義龍の軍に明智城を滅ぼされた際、明智光秀は母・お母の方の命を頼り、妻・熙子とともに称念寺の門前に身を寄せたといわれる。松尾芭蕉が伊勢を訪れた際に、「光秀が連歌会を開くをいたため、熙子が自慢の黒髪を売り資金を用立てた」という説話を詠んだ歌、「月さびよ 智明が妻のせむわ」の句碑が境内にある。

■の番号は、明智光秀ゆかりのスポットです。※掲載の城御朱印・街御朱印・御城朱印・御朱印については、それぞれの施設にて1枚の御朱印として販売されているものではありません。※それぞれの施設を訪れる際は、休館日・営業時間などを事前にご確認ください。明智光秀の生涯については概説あり、記載されている内容はいずれも断定するものではありません。



北庄城址 (柴田神社) (福井市中央)

越前八郡を治めた柴田勝家の築城。石瓦葺きの9層の天守閣を備えたと知られるが、幾ヶ岳の戦い後、羽柴秀吉に攻められ落城。柴田勝家・お市の方夫妻が非業の死を遂げた。勝家を祀る柴田神社があり、本丸跡とされる。



西光寺 (福井市左内町)

北庄城で自害した柴田勝家の菩提寺。もとは、一乗谷城主・朝倉景が家臣に命じて創建した。朝倉滅亡後の1576年(天正4)、足羽山の麓に遷された。勝家と妻・お市の方が眠る墓がある他、北庄城ものといわれる鬼瓦が残されている。



明智神社 (福井市東大味)

光秀が朝倉家臣時代に居住したといいう東大味。後の信長の越前攻略の際、光秀は勝家に申し入れ、かつて住んだこの地を戦火から守ったとされ、地元では「あけつま」と慕われ、今も明智神社に祀られている。細川忠興の妻ガラシャとなる光秀の三女・玉は、この地で生まれたといわれている。

4 朝倉街道 (福井市東大味)

北陸道が通り、越前国との守護・斯波氏や守護代・甲斐氏が拠点とする府中(現越前市)を避けて、一乗谷に物資などを移動するため築かれた道路。光秀が住んだ東大味から一乗谷に至る美濃には、現在も石置の古道が残る。



7 朝倉義景墓所 (大野市泉町)

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義景は、支族の朝倉景鏡を頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の反逆にあり、六坊賀松寺にて自害。辞世の句「七転八倒 四十年中 無他無自 四大本空」は、戦国武将の辞世の中でも、格調高いといわれている。



8 鏡神社 (越前町織田)

織田信長のルーツと伝わる神社。織田氏の祖先が代々鏡神社の神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。信長も「氏鏡」として鏡神社を厚く崇敬していた(柴田勝家書状に「当社の儀は殿様御氏鏡」と書かれている)。

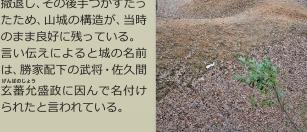


9 越前和紙の里 (越前市五箇地区)

1500年の歴史を持つ、越前和紙の里。古くから良質な紙を産く地であり、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康ら代々の権力者から紙の供給を受ける印鑑が残る。「明智屋敷」には、光秀が信長に仕える際に越前和紙を献上したという記載がある。日本唯一の紙の建物「川上御前」を祀る岡太神社大瀧神社の「日本一複雑な屋根」は必見。

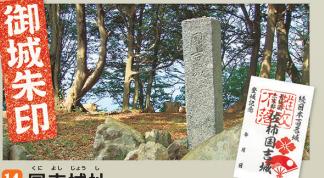
12 番 一番 尾尾城跡 (敦賀市刀根 - 鍋島長浜市)

幾ヶ岳の戦いで、柴田勝家が本陣を置いた山城跡。合戦で勝家は、戦わずして撤退し、その後手つかずだったため、山城の構造が、当時のまま良好に残っている。言い伝えによる城の名前は、勝家配の武将・佐久間義高が允盛公に因んで名付けられたと言われている。



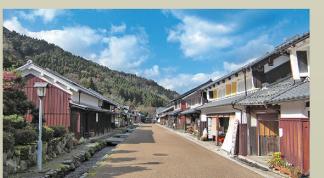
13 金ヶ崎城址・金崎宮 (敦賀市金ヶ崎町)

戦国の三英傑(織田信長・豊臣秀吉・徳川家康)が崩て敗走した「金ヶ崎の退き口」で知られる。お市のほか、両端をくぐった小豆袋を兄・信長に送り、浅井長政の裏切りを知らせたとも言われ、退却戦では、明智光秀や秀吉から歓を務めたとされる。城址に建つ金城宮では、小豆袋型の難闘突破のお守りを授与している。



14 国吉城址 (美浜町佐柿)

若狭武田氏の重臣・栗屋勝久が築いた山城跡。朝倉氏の侵攻を1500年に近く撃退し続けた。1570年、織田信長は朝倉攻めのため、国吉城に陣を構えている。現在は、本丸や堀切、石垣、居館などの遺構が発掘されており、前の若狭国吉城歴史資料館では、国吉城と城下町・佐柿を紹介している。



15 熊川宿 (若狭町熊川)

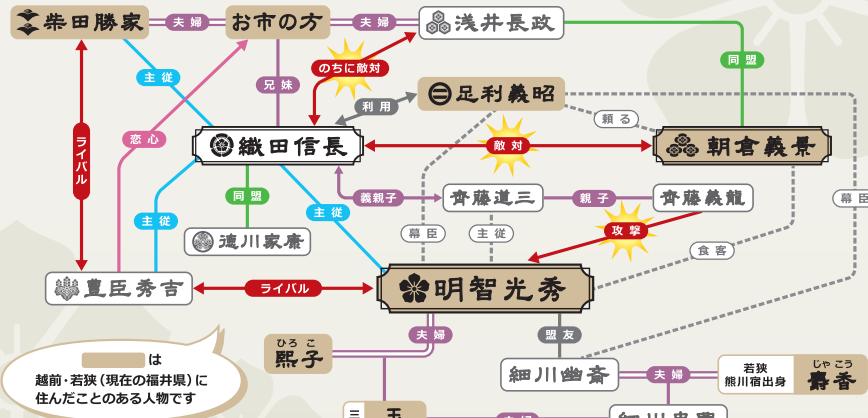
若狭と京都を結ぶ鶴街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート。細川ガラシャの義母・沼田壽昌の出身地(壽昌の夫は明智光秀の盟友・細川幽斎。その細川忠興は光秀の二女・たま・細川ガラシャと結婚)。

光秀と戦国時代

戦国福井のできごと

朝倉孝景、応仁の乱で下越上、越前を支配 越後、吉崎入り	文明3年(1471)	美濃・明智城で誕生(『当代記』説)
若狭守護・武田元光 後藤山城築城	永正13年(1516)	
大永2年(1522)	享禄元年(1528)	美濃・明智城で誕生(『明智軍記』説)
朝倉義景誕生	天文2年(1533)	
義景、家督相続	天文17年(1548)	
朝倉義景、神宮寺本屋再建	天文22年(1553)	妻木繁照の娘・熙子と結婚 明智光秀 福井滞留期間
(桶狭間の戦い)	弘治2年(1556)	明智城落城、光秀、越前入り
足利義昭、義景を襲う一乗谷入り	永禄3年(1560)	
足利義昭、朝倉館で元服 (織田信長、足利義昭を率いて上洛) (足利義昭が室町幕府15代将軍となる)	永禄6年(1563)	三女・玉(ガラシャ)誕生
越前攻め・金ヶ崎の退き口 跡川の戻り	永禄9年(1566)	足利義昭の臣となる
(比叡山焼き討ち)	永禄10年(1567)	足利義昭と織田信長を仲介
朝倉義景を見限り、 義昭とともに織田信長のもとへ	永禄11年(1568)	金ヶ崎の退き口で隠を務める 跡川の戦いで功績をあげ京都書齋を任される
元亀元年(1570)	元亀2年(1571)	比叡山延暦寺攻めの中心を担う 足利義昭との主従關係消滅 近江・志賀郡押領、坂本城築城
(室町幕府滅亡) 一乗谷攻め・朝倉義景死 (小谷城攻め)	天正元年(1573)	
平泉寺、一向一揆に敗れ全山焼失	天正2年(1574)	信長より丹波攻めを命ぜられる
織田信長・越前平定 越後一益、大蔵寺燒け討ち 丹波開拓、越前押領 佐々成政、小丸城築城	天正3年(1575)	石山本願寺攻め 妻・熙子病死
柴田勝豊、丸岡城築城 金森長近、越前大野城築城	天正4年(1576)	三女・玉(ガラシャ)、細川忠興に嫁ぐ
柴田勝家、石ノ木姫改修	天正6年(1578)	丹波・丹後を平定
(本能寺の変) (山崎の戦い)	天正7年(1579)	丹波を押領
琵琶湖の戦い	天正8年(1580)	信長の命令で徳川家康の接待係を務める 本能寺の信長を殺す 天王山で羽柴秀吉と戦いに敗れ、 落ち延びる途中に自害(諸説あり)
柴田勝家、北庄城自害	天正10年(1582)	
(関ヶ原の戦い)	天正11年(1583)	
小谷城	慶長5年(1600)	
結城秀康、越前入封、福井城築城	慶長6年(1601)	

人物相関図



麒麟が 来た道



① 光秀、越前に来る

1556年(弘治2)、長良川の戦いで斎藤道三に味方した明智光秀の叔父、明智光秀ら明智一族は、道三の敗死とともに斎藤義龍から攻撃され、明智城を落城。光秀は、明智家再興を期し、妻・熙子を伴い駿河峠を越えて朝倉義景が支配する越前へ。

光秀は、越前に約10年間とどまっていた間に、足利義昭や、のちの盟友、細川幽斎(勝孝)と出会うことになる。

朝倉義景のもと、元服を果たした足利義昭は、義景に上洛を期待するが、なかなかかない。

そこで光秀は、細川幽斎を通じて「織田信長は頼りがいがある」と義昭を説得し、光秀は義昭の家臣として美濃國へ入国。

その後、信長に仕えることになった。

② 熱烈な撤退戦・金ヶ崎の退き口

1570年(元亀1)4月、織田信長は大軍を率いて京都から出陣。

琵琶湖西岸を北上し、熊川を経て若狭に入り、栗原勝久の国吉城に陣を構えた。

4月25日、織田・徳川連合軍は、朝倉勢千五百騎余りが立て籠もる敦賀・天筒山城を攻撃。朝倉勢の被害は、三千三百騎りとほほ全滅。この惨状に翌26日、金ヶ崎城を守る朝倉義景は城を明け渡した。

先鋒の徳川家康が勢いに乗じて木の芽峰を越え、続いて織田軍が一気に一乗谷へ攻め入ろうとした矢先、浅井長政の妻であるお市の方から兄・信長に両端を結んだ小豆袋が届き、信長は「浅井長政の裏切り」を知る。(※諸説あり)

前に朝倉、後ろに浅井の撃み撃ちを恐れた信長は、大急ぎわざわざ騎馬ばかりの供を従え、熊川から朽木谷を経て京都へと戻ることに。

大軍の撤退にあたり、敵を最後尾で防ぐ戦士を命じられたのが、明智光秀やのちの盟友秀吉、池田勝正であった。

朝倉勢の追撃を光秀らが決死の覚悟で退け、信長は無事京都へと逃げ戻ることができたのだ。